

# ふくしま県人会だより

第49号  
令和6年8月  
福島県人会  
北海道連合会

## 福島県人会北海道連合会会長

### あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 佐藤 貞夫



福島県人会北海道連合会会員の皆様におかれましては、道内各地で御家族共々お健やかに北海道の初夏を満喫されていることと思います。

私は、今年五月二十六日定山溪で

開催されました第五十二回（令和六年度）福島県人会北海道連合会総会で退任されました近藤康弘前会長の任期を引き継ぎまして会長を拝命しました旭川福島県人会の佐藤貞夫でございます。

簡単に自己紹介をしますと、福島県中通りの伊達郡桑折町の出身で実家は桃づくりの農家でした。子供の頃には父親と母親の桃の収穫や出荷作業を手伝ったこともありました。地元の高校を卒業後防衛大学校に入学、卒業後は陸上自衛隊の幹部として三十七年間定年まで勤務させていただきました。旭川の駐屯地で勤務していた時に妻と知り合い結婚した関係で、定年退職後は旭川に居を構えることになり、現在は旭川市議会議員（三期目）をさせていただきます。

既に十三年前になりますが、東日本大震災直後に地元福島県と宮城県を視察し、あまりの被害の大きさに呆然としたことを昨日のことにように思い出します。最後になりますが、母県福島県の

更なる復興と福島県人会北海道連合会会員の皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げ会長就任のご挨拶とさせていただきます。

## 連合会の活動

### 第五十二回福島県人会北海道

#### 連合会総会が開催されました

第五十二回福島県人会北海道連合会総会が、札幌市の「定山溪万世閣・ホテルミリオーネ」で、五月二十五日（土）から二十六日（日）に開催されました。

鈴木福島県副知事をはじめとした多数の来賓をお迎えし、道内各県人会から会員の皆様等、合計五十一名が出席しました。

総会では、事業計画や収支予算が承認され、次回の総会は苫小牧福島県人会が担当することが決定されました。式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会会長からの感謝状が贈られました。

#### 【感謝状受彰者】

福島県知事感謝状

船山 一様（札幌）

福島県人会北海道連合会会長感謝状

武田 道子様（札幌）

高橋 磐男様（札幌）

高橋 文明様（美幌町）

田島 みつ子様（苫小牧）



【船山一様】



【高橋磐男様】



【高橋文明様代理高橋貴美様】

懇親交流会では、全国新酒鑑評会で金賞を受賞した福島県産日本酒等を味わいながら、母県の思い出話に花を咲かせるとともに、来賓の方々を交え、会員同士の交流を深めました。

また、旭川福島県人会の佐藤貞夫様が吟詠「春望」を披露され、宴に花を添えていただきました。久しぶりとなるカラオケ大会では、会場は大いに盛り上がりました。会場では、再会の喜びを分かち合う会員の皆様の笑顔が溢れていました。



【苫小牧県人会の皆様】



【詩吟を披露される佐藤様】

## 会長就任あいさつ

函館福島県人会

会長 島 昌之



令和六年一月の総会で函館福島県人会小山直子会長から会長を引き継ぎました島昌之と申します。どうぞよろしく願います。

私は福島県郡山市で生まれました。高校卒業までの十八年間は故郷・郡山市で過ごしました。夏になると近くを流れる阿武隈川や猪苗代湖、浜通りの太平洋で泳ぐなど、自然あふれる福島で子ども時代を過ごしました。

私が生まれ育った郡山市は「治安の悪い街」と呼ばれることもありましたが、私が中学生の頃には「東北のシカゴから東北のウイーンへ」を合い言葉に「音楽の力」で街が「音楽の都・楽都郡山」に生まれ変わる

うとしており、高校時代には「合唱」を始めました。その後、大学でも合唱を続け「音楽」と繋がる仕事に就きたいと楽器メーカーである河合楽器製作所へ入社し、最初の赴任地が北海道函館市でした。その後、職業は変わりましたが、「合唱」は今でも私の生活の一部となり函館市民として今日に至っています。

さて、函館福島県人会は一九六二年（昭和三十七年）一月二十六日に設立しました。県人会は「会員相互の親睦を図り、函館市の発展に貢献すること」を目的に活動を続けてきました。中でも箱館戦争で犠牲になられた会津藩士を慰霊する「傷心惨目の碑」での碑前祭を毎年五月十一日に欠かさず開いてきました。

会員の高齢化や減少など課題はありますが、福島県出身者や福島県に縁のある人たちの交流の場、抛り所となれるように母県との繋がりを大切に活動して参りますので、宜しくお願いいたします。



【令和6年の碑前祭の様子】

千歳福島県人会

会長 上田 政則



暑中お見舞い申し上げます。会員の皆様におきましては益々ご健勝で過ごしのことと心からお慶び申し上げます。平素から千歳福島県人会の活動にご協力いただき感謝申し上げます。

この度、五島洋子会長が退任し、顧問に就任されたことに伴い、新会長に就任しました上田政則と申します。千歳会員は三十名、前任者に引き続き頑張りたいと思っております。よろしく願います。

さて、千歳は自衛隊の町であり自衛隊の町ならではの行事があります。その二つを紹介します。

一つ目の「北国七県人会」は、青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島・新潟の七県で北国特有の悩みに触れながら北国の仲間として交流を深めています。会は毎年十二月に開催、監事は輪番制で実施しています。

二〇〇一年に発足しました。

二つ目の「千歳郷土餅つき大会」は、毎年宮崎・大分・高知・広島・青森・岩手・宮城・福島など十五、二十の県人会と千歳市民で作る千歳圏人会が参加し、伝統ある餅つき文化を子供たちに伝えようと尽力し、各県人会の活性化につなげています。

郷土自慢の餅つき大会の主催は商工会議所で、臼・もち米等を提供し、自衛隊は炊き出しを、各県人会と市民は餅つきでお互い協力し合いながらやっております。わが県はヨモギ餅を提供しています。千歳市民には大好評で売り上げの一部は災害に見舞われた県に義援金として手渡されています。

千歳福島県人会も高齢化に伴い会員の減少が止まらず、会議のたびに会員の増加の方策や県人会のあり方、県人会へ貢献、他地区の交流等検討しますが、良い案がなく悩みの種です。人が減少すれば活動の低下は避けられません。福島県とゆかりのある企業（北海道在住の企業）の把握を事務局にお願いし、情報を共有し開拓できればと思います。

福島県に母県を持つ人は勿論、福島にゆかりのある人や福島県が好きになる人、入会したくなるような魅力ある県人会になるようにと思

ますが、まずは入会者の増員を目標に定め、今年度は情報収集することから実施したいと思います。

今後千歳福島県人会一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。会長就任のあいさつと

## 会員通信

白河の関越え

旭川福島県人会

條 元彦

「白河の関越の悲願」とは、高校野球における引用で、東北勢は百年間以上にわたり、春の選抜、夏の全国高校野球選手権大会に出場し決勝に十二回進出するも、全て敗れ準優勝に終わっています。

北海道や東北は雪国で練習の機会に恵まれず不利であると言われるてきました。二〇〇四年の第八十六回夏の甲子園で東北よりも北の北海道の駒澤大学附属苫小牧高校が初優勝し、優勝旗が白河の関を飛び越えて北海道に渡り、道民も感激した事を思い浮かべます。

しかし、一方では優勝旗は飛行機での空輸となったので、「陸路では白河の関を越えていない」との評価

も根強く、悲願は継続状態でした。

ところが、二〇二二年の第百四回全国高校野球選手権大会において、福島県代表の聖光学院高校と宮城県代表の仙台育英学園高校が準決勝で対戦し、仙台育英学園高校が決勝戦へと勝ち上がりました。

そして忘れもしない八月二十二日、決勝戦で仙台育英学園高校は下関国際高校を八対一で下し、東北発の甲子園制覇を達成しました。これにより「優勝旗が白河の関を越えた」と歓喜したものです。翌八月二十三日に仙台育英学園高校の選手団は、優勝旗と共に新幹線で宮城県に帰還しました。これにより、陸路で白河の関越えを果たすと同時に優勝旗が初めて東北入りを果たしました。

その後、白河神社には多くの参拝者が訪れ「仙台育英学園高校優勝記念」と記した朱印が人気となったとの事です。私も昨年仙台、山形、郡山と祖先のお参りを兼ねて兄弟と歓談してまいりましたので、その足で栃木県境にある「白河の関」を訪れ史跡の見学と白河神社にお参りをしてまいりました。

白河の関は「国指定史跡」であり「奥州三関」の一つに数えられています。栃木県境から約三キロの地点で、みちのくの玄関口と言われ多く

の方が訪れます。皆様も機会がありましたら是非足を延ばしては如何でしょうか。

福島県人会に参加して

美幌福島県人会

幹事長 佐藤 登

第五十二回福島県人会連合会総会が札幌定山溪で行われました。年々参加人数も少なくなり、今回は全体で五十一名の出席、美幌県会からは四名での出席でした。

総会も滞りなく進められ、予定通り終了しました。懇親会は総会会場の隣の会場で盛大に行われ、福島のおいしいお酒を頂き、皆さんにこやかに、にぎやかに楽しんでいました。旭川県人会の佐藤会長が詩吟を披露され、宴に花を添えて頂きました。最後に皆さんで、ふるさとを歌ってお開きとなりました。

二次会は旭川県人会の部屋で飲み直し、皆さんで談笑しました。お世話になりました。次回は苫小牧で逢う約束をして、部屋を後にしました。

今回私は一人で美幌町から車で行き、久しぶりの札幌を楽しみました。ありがとうございました。



【打合せを行う佐藤様（中央）】

### フェスティバルに参加して

美幌町福島県人会

幹事 吉田 武薫

西日本では梅雨入りが徐々に発表され、故郷の福島では連日、日本各地の最高気温上位に入る三十度越えの暑い日が続いております。

六月十八日の美幌町の最高気温は二十八度と、福島よりは涼しかったものの、今年になって一番の暑さでした。そんな中、美幌のナイトスポットのアカシア様にて、第五回美幌町福島県人会フェスティバルが会員十一名、協賛会員五名、県事務所からもご参加いただき、盛大に開催されました。

私自身、所用があり一時間遅れでの参加となりましたが、その時には既に福島の状況や、お互いの近況を和気あいあいと語り合い、大いに盛り上がり上がっております。会員の先輩からはキンキンに冷えたビールを注いでいただき、更にオードブルの料理を取り皿に山のようによそつていただき、まるで親戚の家に遊びに来たときのようなにぎやかな雰囲気です。フェスティバルに参加させていただきます。

そして大いに盛り上がりつつところで、百名は収容可能なアカシア店内にある大スクリーンと、バンド演奏も時折開催されるほど、音響の整ったカラオケがスタートしました。毎年フェスティバルに参加するたびに思うのは、いったいどこで鍛えているのかという、皆さんの力強い美声が以前と比べても全く衰えないことです。おそらく、おいしいお酒で喉を潤し、仲間との楽しい会話が発声練習になって、喉も準備が整っているから、あの歌声が出るのだと思います。

世の中暗いニュースや、腹の立つことなど、楽しいことばかりではありませんが、素敵な仲間と大いに笑い、大いに歌うことで、また明日からの活力になるものと思います。これからも、このような楽しいイベント

ントが継続していくことを切に願っています。



【フェスティバルを楽しむ吉田様（左）】

### 福島県人会連合会に参加して

美幌町福島県人会

刈谷 敏子

五月二十五日、二十六日と第五十二回福島県人会北海道連合会総会が、定山溪万世閣ホテルミリオーネで開催されました。私は美幌から参加しました。総会は近藤会長の挨拶から始まり、福島県副知事鈴木正晃様、福島県議会副議長山田平四郎様から祝辞を頂きました。

その後の懇親会では、すばらしいご馳走を頂きました。私は函館県人会の皆さんと同じテーブルで、なごやかに話しながら食事を頂きました。

た。私の小学校の恩師の息子さん、小沼由知さんと会い、話はずみ、とても嬉しく、最高のひとときを過ごしました。

部屋は、旭川県人会の高木厚子さん、中山スミ子さんと同室で、大変お世話になりました。これまで挨拶した事しかなかったのに、前々から会っていたかのように、話が弾みました。私にとつて今回の連合会総会は、忘れる事ができない、すばらしい日、大きな一ページになりました。来年の総会は、苦小牧で開催されることとです。又皆様にお会いできる事を楽しみにしております。今回は、たくさんの人にお世話になりました。ありがとうございました。また逢う日まで。



【刈谷様（左）と札幌福島県人会の小沼様（右）】

# 新会員の紹介

旭川福島県人会

水口 孝司 様 (矢吹町)

私は、昭和三十年、美瑛町で生まれました。

私と福島の繋がりは、母方の祖父母が福島生まれと聞いております。祖父母は福島で生まれ育ち、北海道の富良野市東山地区に開拓で入植したとことです。開拓したときは大変苦労したそうです。

祖父は、私が小学校に入学したときに亡くなりましたので記憶がありませんが、祖母は長生きでしたので、福島の訛りを少しは覚えていま

す。短大生活での思い出としては、福島県から来ていた友人から、「水口さん、はなしをしたら、福島訛りがあるね」と言われました。自分ではあまり気がつかなかったので、「自分の母方のじいちゃんとは赤ちゃんが福島生まれで、福島育ちだよ」と話したのを覚えています。

今では、時々福島の友達と電話するくらいで、福島との繋がりはあまり多くはありませんが、県人会に誘われて入会しましたので、これから

はより多くの福島との関わりを持つていこうと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



【ステージにて歌う水口様】

苦小牧福島県人会

新井 靖子 様 (会津若松市)

入院で同室の方が福島の出身で、私と主人も会津若松に住んだことがあると話したら県人会に入会のお誘いがあり、福島の美味しい桃が食べられると話され、早速港まつりに桃を買いに行き、その場で入会しました。りんごも食べたいです。

## 福島県からのお知らせ

全国新酒鑑評会にて

福島県の十八銘柄が金賞を受賞、

入賞三十一銘柄は日本最多

独立行政法人酒類総合研究所が開催している令和五酒造年度「全国新酒鑑評会」において福島県から三十一銘柄が入賞し、そのうち十八銘柄が金賞に選ばれました。

今回の鑑評会において、福島県の金賞受賞数は、一位の兵庫県に一銘柄の差で、僅差で二位という結果でした。しかし、入賞三十一銘柄は都道府県別で日本最多であり、去年よりも金賞の数を伸ばし、福島県の日本酒の品質の高さを改めて示す結果となりました。

福島県は平成二十四酒造年度から、全国新酒鑑評会における金賞受賞数日本一を九年連続で達成しており、全国でも有数の日本酒の産地であります。来年の新酒鑑評会にて、金賞受賞数日本一を奪還できるよう、「ふくしまの酒」を応援くださいますよう、よろしく申し上げます。

くだもの消費拡大委員会による

もものPRが実施されました

令和六年七月十七日(水)から十八日(木)の二日間、北海道札幌市にて福島県くだもの消費拡大委員会による福島県産もものPRが実施されました。

福島県からはミスピーチキャンペーンクルー(萩川日向子さん)を

はじめ、主要産地である伊達市や桑折町、全農福島県本部、ふくしま未来農業協同組合から、市長や幹部の方が各市場や関係機関を訪問し、旬を迎える福島県産もものおいしさをPRしました。

また、札幌市内量販店にて福島県産ももの試食販売を実施し、多くの方に福島のももの美味しさを知っていただくことができました。



【札幌中央卸売市場でのセリ台PRの様子】

四年ぶりとなるチカホでの

ももPRイベントについて

令和六年七月二十六日(金)から二十七日(土)の二日間、チカホ北大通交差点広場にて、福島県産もものPRイベントを開催しました。



【販売ブースの様子】

旬を迎えた福島県産「あかつき」や、果汁100%の桃ジュースなどが飛ぶように売れ、初日は開始から一時間も経たずに、準備したものが完売となりました。

お客様からは、「福島のものが好き」、「来年も開催して欲しい」などの嬉しいお声を多数いただきました。福島県出身者や、ご家族が福島県にお住まいの方など、ゆかりのある方も多くいらっしゃいました。

初日は、札幌福島県人会の船山様にもお手伝いいただきました。多くの方にお越しいただき、福島のもをPRする格好の機会となりました。ありがとうございます。

## 新任職員紹介

福島県北海道事務所

副主査 遠藤 文隆（郡山市）



【旭川市の太田神社にて】

四月から北海道事務所勤務となりました遠藤と申します。

私はこれまで福島を離れる機会がなく、一度くらいは県外で暮らしてみたいと思っておりました。福島県庁には北海道・東京・名古屋・大阪の四つの県外事務所があります。五年前に旅行で訪れて楽しかった思い出のある北海道を希望したところ、まさかの異動となりました。大変驚きです。

私は中通りの郡山市出身ですが、県職員になってからは会津地方の勤務を希望し、只見線で有名な只見町と会津若松市でそれぞれ三年間勤務していました。会津は寒さが厳しく雪が深い地域ではありますが、

人は親切で温かく、住んでいて大変心地よい街でした。北海道も会津以上に寒さが厳しい地域ですが、会津と同じように穏やかで温かい人柄の方が多く感じています。

また、北海道には福島とゆかりの深い地域が数多くあります。五月に利尻島に行った際には会津藩士の墓を巡ってきました。長距離の運転はあまり苦にならないので、今後ドライブレコーダーや観光をしながら道内各地を隅々まで巡っていかうと思います。県人会の皆様とお会いした際には、「こんなところも行ってみたいよ」とおすすめのスポットなどを教えていただけると大変嬉しいです。

今後は北海道事務所の一員として、福島の農産物や観光PRなど、故郷である福島の魅力を伝えられるよう精一杯取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記

とまこまい港まつりに参加して

令和六年八月二日（金）から四日（日）の三日間、苫小牧市で開催された「とまこまい港まつり」に苫小牧福島県人会が出店し、福島県産も

も等の販売を実施しました。北海道事務所長の松浦所長をはじめとする事務所に加え、福島県庁県民広聴室が来道し、販売のお手伝いと福島県の観光PRを行いました。

港まつりでの福島県産ものの販売を毎年楽しみにしているお客様も多く、開店前から連日長蛇の列ができるなど、大好評でした。用意したものは、昼過ぎには完売しました。県人会の皆様が地域に根ざした取組を改めて拝見することができ、貴重な機会となりました。ありがとうございました。



【苫小牧福島県人会の皆様】